



【サポーターのチーム活動とプログラム改善】

今年度の森林学習プログラムは、サポーターとアイデアを出し合いながら内容を構築していきました。そのため森林学習サポーターを4チームに編成した「チーム活動」の手法を導入し、「プログラムチーム」に加入したサポーターが一丸となってプログラム内容を検討し、6月の鳥沼公園での森林学習から実践していきました。活動後の終了ミーティングや各校教員からいただいたアンケートを確認しつつ、改良を加えながらその後の神社山での活動にも反映していきました。

今年度の活動でさらに重視したポイントとして、樹木の特性や木材の用途など、これまでメインとなっていた理科の要素に社会科の要素を加味するように工夫してみました。従来の「オリエンテーリング」を活動の軸とし、子どもたちが楽しめることを重視。樹木が持つ特性に着目できるように林内に版木を設置、触れたり木ぶちで叩いたり、樹木の性質を体感しながら学べる仕掛けも施しました。将棋盤に用いることの多いカツラや、野球のバット材として注目のカエデなどの堅い木は、叩くと森中に響き渡るような高い音を発し、トドマツやホオノキなどの柔らかい木は、爪を立てたり削ったりしながらその感触も実感。子どもたちは新たな発見に歓声を上げていました。一方、高学年向けには樹木の用途や人との関わりについて考えられるような設問も追加しました。

その他のチーム活動は、サポーターの知識や経験値向上をサポートする「スキルアップチーム」、活動の様子やサポーターが野外で感じたり気づいたりしたことをSNS上に発信する「広報チーム」、神社山に設置した監視カメラの管理を行う「野生動物調査チーム」があり、適時皆さんに活躍してもらいました。今年初の試みだったチーム活動でしたが、来年に向けてさらにサポーターと検討していきたいと思います。



扇山小 次はわたし！

【令和5年度の森林学習プログラム】

鳥沼公園での森林学習は、扇山小学校3年生、富良野小学校4年生、東小学校3年生の3校が体験し、樹海学校3,4年生、麓郷小学校5,6年生、山部小学校3,4年生、樹海学校7,8年生の4校が神社山で森林学習を行いました。今年も樹海学校の3,4年生は夏と秋の2回実施。神社山の季節の変化を比較できるスタイルが定着しました。



麓郷小 事後学習の様子

多くの学校で、導入されたタブレットを活用しての学習活動が主流となりつつあります。タブレットは応用性に富み、蓄積したデータを継続的に共有することができ、またその確認や呼び出しが容易なことなど、これからの活動に欠かせないツールとなりそうです。

今年は夏の暑さが厳しく、それゆえかどうかはわかりませんが、神社山の樹木の結実が例年とは異なる印象を受けました。子どもたちに人気のホップのようなサワシバは一つも実らず、風に乗るとヘリコプターのようにクルクル回りながら落ちてくるシナノキの実もほとんどありませんでした。本事業も8年目を迎えましたが、このような森の様子は初めてなんじゃないかと思います。そんな話を子どもたちにも聞いてもらいながら、時には表情を変えることもある森の様子を感じてもらえるのも、森林学習の一つの醍醐味かもしれません。

樹海学校7,8年生のプログラムは2年ぶりに教育大の学生と一緒に作りました。中学生向けに大学生の清水さんが試行錯誤しながらプログラムを考案。事前に子どもたちの様子を先生に尋ね、子どもたちの琴線に触れるような内容でまとめたので、笑顔の絶えない活動となりました。

来年は隔年参加の鳥沼小学校の5,6年生が加わる予定です。サポーターも年々パワーアップしており、関係者と一緒に子どもたちの記憶に残るプログラムを提供していきたいと思っています。



樹海学校 7,8年生 お兄さん教えて！